

平成28年度 学校法人 三幸学園 広島ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 末安 由香

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 金永真利那

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、美容分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を世界を明るくする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、美容分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・業界理解及び意欲を育む教育

業界・業種への憧れ・今学んでいることへの意識づけ、及び、離職防止にむけて卒業した後のギャップを埋めるために、現場の方・卒業生をお招きし、多方面からのお話を頂く機会を増やす。

(平成28年度実績) 平成28年度中に約15社、平成29年度に入ってから2～3社からのお話を頂く機会を設けている。

・対話力の強化

外部へのサロンワークの機会を充実させ、会話の機会をより多く設け、語彙力・表現力の醸成を図る。

(平成28年度実績) 大型ショッピングセンター様での美容イベント 全4回

老人ホーム様への美容ボランティア 全2回

大学への美容ブース

服飾メーカーファッションショーヘアメイク

ホテルでの美容イベント

地元プロスポーツチーム試合での美容ブース

スチューデントサロンの実施

② 学校関係者評価委員会コメント

28年度での学校関係者評価委員会にてあがった課題点について、着実に改善策を講じて頂いて嬉しく感じる。また、その内容も教育的効果を感じることができるものばかりで、今後の生徒の成長成果に期待が持てる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

美容業界との連携を深め、業界の求める人物像を的確に掴み教育目標、育成人物像に反映すること。
またそうした”社会が求める人物像”を学生および保護者へ更に周知し、それに伴う教育への理解を更に深めること。こと保護者においては授業、実習、学校生活等に対しより一層の理解と協力を得ること。

② 今後の改善方策

関連企業・団体との連携を深めるための訪問・面会、研修等の機会を増やす。また地域に限定しない全国的な業界の動きを掴み、情報を収集する。関連企業に対しては本校教育への理解と連携構築へのアプローチをする。産学連携を推進し、業界に対して本校学生により貢献と協力を、また本校教育への参画と協力を求め、相互にメリットのある関係構築できる企業を増やしていく。

③ 特記事項

より即戦力となる人材育成を目指し、業界のニーズを深く理解することを目的に、サロンワークというカリキュラムを中心に学外での活動に積極的に参加している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・入学当初に実施されるオリエンテーション・保護者説明会でも明確に理念・目的・育成人材像が示されており、わかりやすかった。
- ・明確な人材育成像で、共感もてる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

運営に関する意志決定機能は、職務権限により明確化されているが、都度教職員間の相互確認や上長への相談と指示命令によるところが大きい。そのため、相互確認時の齟齬、もしくは上長への適切な報告、相談が滞ることによって学校運営上に支障をきたす恐れがある。

また、今年度より新しい人事制度がスタートし、より適切に人事考課がはかれるように改善された。

② 今後の改善方策

内規により明確な運営規則の制定と教職員間の周知徹底を図る。また共通認識を持てる運営マニュアルの作成を行う。

学園本部のシステム開発室およびサポートデスク(ヘルプデスク)との連携を深めシステムトラブルの防止及び発生時の対応を速やかに行い教育活動の遅滞をなくす。

③ 特記事項

年3回、定期的に全教職員・講師にむけての会議を実施し、運営方針とともに、情報共有を積極的に行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・適切に学校運営がなれていると感じる。
- ・ますますのコンプライアンス体制の整備に期待している。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

28 度から教職員における研修体制及び研修内容を改善し、実施できたことは評価できると思う。今後もそれを体系的に継続していけるシステムが必要

② 今後の改善方策

関連業界委員の意見を集約しそれらを元により具体的に教育活動への還元及びより実践的、体系的な教育課程の編成に向けて、29 年度にむけて、現在年間授業計画の見直しを図り検討中。

現在インターンシップ実習等により連携を図っている業界団体と、より密な連携を継続的かつ定期的に行うため、意見交換会の実施や、学生の事例研究発表への参加要請などを行う。

③ 特記事項

教科担当者の連携強化を図る為に、年間をとおして教科会の開催。これにより、教員間の共通認識が図れ、より教科間が連動した授業運営に期待がもてるようになった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・授業計画の工夫が感じられる。
- ・インターンシップや実習における実習記録の書き方の指導をより頂くと学びが深まるのではないかと。
- ・教職員の研修の充実がみられる

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

退学率においては低減のための様々な取り組みを行ったが明確な成果を出すには至っていない。入学後の学習や学校生活、行事等学校生活の中で、美容業界への就業意欲、学修意欲の醸成と向上を図れていない現状に対し、今後改善の余地がある。

② 今後の改善方策

退学理由の分析を行い、その結果「目標喪失」が多くの割合を占めることが判明した。そのさらに詳細をみたところ、「業界・職業への意欲喪失や低下」がみられた。これを受け、①授業内容の改善と質の向上 ②将来をみせ、夢や目標を描き続けられる工夫 ③保護者との連携強化 ④教職員の行動基準の統一 を大きな課題として改善を行っている。

③ 特記事項

各種アンケート(授業・実習・担任・卒業生)を有効活用し、課題発見と具体的な施策検討を行っている。

就職率(全生徒に対する) 平成27年度:91.8% 平成28年度:100%

退学率

平成27年度:15.1%(年度当初在籍者数 172 名) 平成28年度:10.1%(年度当初在籍者数 189 名)

④ 学校関係者評価委員会コメント

・退学率の低減がなされている点は、大いに評価できる。このままより低減にむけて取り組んでほしい。

・資格をとるだけでなく、それをどう活かしていくかまで、生徒自身が考えられるように指導してくれることを期待している。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業生への支援体制について、卒業生へのフォローを目的としたホームページ「Sanko Link」にいくつか掲載してはいるものの、ホームページ自体の認知が低い。
- ・高等学校とのキャリア教育・職業教育の案内を進路指導部あてに訪問の際にお伝えはしているものの、開催実績は多くない。

② 今後の改善方策

- ・卒業時にホームページ「Sanko Link」の周知や同窓会ツイッターフォローの促しを行う。
- ・最低年2回の担任との個人面談の実施や、担任だけでなく全教職員で円滑な連携を取り、支援体制を強化するため、クラス会議やクラス連絡ノートを作成し、環境整備を行っている。

③ 特記事項

- ・スクールカウンセラーの設置
- ・卒業生へのフォローを目的としたホームページ「Sanko Link」の開設
- ・29年度より従来行っていた「保護者通信」に返信機能を追加し、4～5月に全生徒への保護者への電話掛けを行った

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生向けのホームページについては、まだまだ認知度が低い。今後もツイッター等での配信を継続してほしい。
- ・保護者との連携は、細かに取れていると感じる。安心感がある。
- ・在校生出身高校へ、卒業生の現状報告を定期的に頂け、安心感がもてる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

・校舎及び設備については、保守管理企業様と円滑な連携の上で、安心・安全な教育環境の維持向上に努めている。また、防災指導を一過性で終わらせるのではなく、常に全教室へ避難経路の掲示を今後行っていく。

・実習先企業様は生徒へ希望をとって、ご依頼をおこなっており、ほぼ希望通りの実習先にお世話になることができている。

② 今後の改善方策

実習先企業様との指導内容の連携

③ 特記事項

ロサンゼルス(エステ・メイク・ネイルコース)・ハワイ(ブライダルコース)への海外研修制度を設け、海外での美容・ブライダルの知識・技術を学べる機会を提供している。(希望者のみ)

《主な教育設備》

- ・メイク実習室
- ・ネイル実習室
- ・エステ実習室
- ・チャペル
- ・バンケットルーム
- ・ドレスルーム

③ 学校関係者評価委員会コメント

・教育環境として適切に運営され、問題ないと感じる

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多彩なニーズに応え、健全な学校運営の基盤となる募集活動に取り組んでいる。学生募集活動は県の指導に準じて適正に行っているが、教育成果をよりわかりやすく伝えていけるよう改善が必要。

② 今後の改善方策

・近年は学費支払が困難であることを理由に、進学を辞退する生徒も多くなっているため、特に保護者説明会やパンフレットを通じ、明確な学費サポート体制や学納金の総額をわかりやすく伝えていくことに努める。

③ 特記事項

・地域で設置されている広報室と連携しながら、対外折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機会を通じて正確に伝えられるように計画的に活動を展開している。

・県が実施している「就学支援金制度」にも参加をし、1人でも多くの学ぶ意欲のある生徒の受け入れが可能になるよう努力している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・県の取り組みにも積極的な協力姿勢がみられる。

・生徒募集活動においても、疑問点や不明点は感じない。

・今後、既卒の入学希望者も増えてくる見込みを想定し、ますますの受け入れ態勢を構築してもらいたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

さらなる法令遵守の推進。また、会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

② 今後の改善方策

自己評価による問題点における具体的な改善策の構築

③ 特記事項

平成 27 年度より自己評価結果を公開開始

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

地域貢献活動においては十分とは言えない。

② 今後の改善方策

地域へ開かれた学校として、積極的に情報公開、施設貸し出しなどを実施する。

地域貢献を目的とした教育活動を実施し、地域社会に開かれた学校教育を行っていく。

③ 特記事項

平成 28 年度よりサロンワークの一環として、ボランティア活動に取り組んでいる。

また各業界団体との連携も強め、教室の貸し出し等にも協力をし、中国地方の美容学校の先生方へも学びの場を提供している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・この委員会も含め、外部の声を積極的に活用している姿勢は評価できるので、引き続き地域とも連携しながら取り組んでほしい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

平成 29 年度留学生1名在籍(中国)。現在のところ、大きな問題もなく留学生も意欲的に勉学に取り組む姿勢が見られている。留学生向けの入試・学費ガイドブックは作成しているものの、現状は戦略的な国際交流というには、改善の余地がある。

② 今後の改善方策

作成しているコンテンツの露出度をあげる

③ 特記事項

留学生申請取次者を1名常設。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校運営・財務等、各項目において、おおむね健全と感じられる。

生徒数が減少する専門学校もある中、生徒数が年々増加していることを見ても、認知度の広がり、業界・入学希望者・高等学校からの期待値も高まってきている実感である。

また、昨年度の学校関係者評価委員会であがった、具体的目標においても、着実に施策が実行されており、安心感を覚える。ますます全教職員の一体化・指導力の向上を目指し、生徒にとってよりよい教育環境が提供されることを期待している。

今後は、卒業生のフォロー体制の構築を期待したい。まずは、離職の低減。そして、卒業生がほぼ女性ばかりということを見るとライフスタイルの変化にあわせて、就業支援などがあると、さらに良いのではないかと。

最後に、産学連携の強化も不可欠である。学校内だけの教育に留まらないように、業界・企業と連携をし、生徒の教育を行ってもらえることを期待している。